

しんぐうライフ



六所神社にて 立花オールパワーズ制作『疫病退散竹灯籠』撮影

特集

コロナに負けるな！新宮町

夏～秋号

2020. 8 VOL. 2

- P2 新宮歴史ロマン 第2回
- P3～5 【特集】コロナに負けるな！新宮町
- P6 お出かけ情報ファイル
- P7 地域ニュース しんぐうライフ白書
- P8 新宮町の自然写真 特選川柳 編集後記

新宮歴史ロマン

第2回 立花山編

前号の特集追記

立花山には昔、九州では最大規模の山城やまじろが築かれていました。麓の集落には、大門、武士が居住していたと思われる大屋敷・中屋敷という地名も残されています。何故この山に城が築かれたのでしょうか・・・

元寇の役の際に「異国警固番役」として香椎前浜を担当していた為に、すでにこの地に地盤を築いていたからです。

ところで立花の名前は、延暦24年西暦805年に伝教大師・最澄が唐から帰国、独鈷寺とくこじを建立した時、杖を地に立てると、枝根が繁り花が咲いたことに由来があります。



桜の季節、新宮霊園から望む立花山

立花山城の覇権をめぐつて、約270年間大友氏に中国地方の大内氏、毛利氏がかからみ幾多の攻防がありました。

そして関ヶ原の戦いに勝利した黒田長政が、福岡城を築城したことに伴い、慶長6年立花城は、廃城され、役目も終わりました。けれども、その間、多くの武将を輩出しました。戦国時代末期の城主立花道雪と立花宗茂が有名です。

道雪の一人娘 閨千代姫ぎんちよは、7歳で家督を譲られ立花山城の女城主となり、15歳の時に宝満山城より宗茂当時17歳を婿に迎えることになりました。

若い夫婦が過ごした、立花山は今も楠の大木に覆われ大きな佇まいを見せています。次号に続く

【河野好宏】

創刊号では、いろんな『集い』を楽しもうということでした。町内に最初にできた、サロン緑ヶ浜を取材させて頂きました。一部修正と追加内容を記します。サロンを運営されている方々のお話です。

「サロン緑ヶ浜の発足は、平成17年、準備に2年かかりました。きっかけは、社協さんから住民の身近な地域で、人と人がつながれる居場所をつくりませんかと提案されたことです。ボランティアの皆さんと福祉委員と民生委員が協力しあい、社協さんの活動で学んだことを実践しました。お陰様でそれが15年続いています。」

後日改めてお話を伺い、脈々と受け継がれていく人と人の助け合い・ふれあいの精神を感じました。引続き町内の『集い』の場を取材させて頂きたいと思います。【編集長】

特集 コロナに負けるな 新宮町！ — 新しい生活様式編 —

政府の専門家会議が提言した『新しい生活様式』は、日常にウイルスがいる前提で、感染をふせぐために、これまでとは違う人とのコミュニケーション方法、食事の仕方、運動方法、働き方など、生活の様式が変わってしまいました。

今号の特集では、コロナ禍における町役場や自治体、社会福祉協議会（以下社協）、各ボランティア団体のアイデアや取り組みを紹介します。ご参考になれば嬉しく思います。

【編集部】

ふれあい10分コールそら

三密を避けることが新しい生活様式となり、これまで人と人とのコミュニケーション方法として最良であった『会話』が難しくなりました。創刊号で紹介した傾聴ボランティアそら主催のカフェも当分再開できないそうです。そこで新しい活動を始められました。『ふれあい10分コールそら』誰ともしゃべることなく1日が終わったという日々が続いていませんか？そんなときはお電話ください。人の声に触れることで



明るくて楽しい傾聴メンバー

**ふれあい10分
コールそら**

「誰ともしゃべらずに1日が経った...」そんな日々が
続いているあなたに
傾聴ボランティア「そら」が
お話を聞いてくれます。

日程：8/7、21、28日
時間：午後1～3時
※通話時間外は10分程度です。

対象：新宮町在住の方
問合せ：新宮町社会福祉協議会
092.963.0921
※ご希望の方は「ふれあい10分コールそら」希望と
お伝え下さい。



真剣に聴いています

少しでもほっこりするひと時を提供させていただきますと優しいメッセージです。体験された方から「楽しいので皆さん利用されたらどうでしょう」（70代男性）「慈愛に満ちた対応で痛みが和らぎました」（60代女性）等の感想が寄せられています。

電話の前では笑顔と聞き上手なメンバーが皆さんからのコールを待っています。ぜひ体験してみてください。

湊坂ボンス買物定期便

湊坂ボンス（絆）では、買い物に不自由をしている人を支援するため、ボランティア活動の一つとして買い物支援を再開しました。利用者の方々からは、「にぎやかにワイワイと、お話をするのが楽しい」

「荷物が重いので自宅まで送って頂き助かる」「独りでは無いと感じられ、心強い」と大変喜ばれています。待望の社協の8人乗りワゴン車の貸し出しも始まります。（10月頃から）地域での移動に使えるようになり、多くの方々の参加利用が可能となります。



皆で楽しくお買い物

対策本部を取材！



山口望美氏 対策本部事務局（健康福祉課長）

新宮町独自の取り組みを取材しました。
お話を伺ったのは、新宮町新型コロナウイルス感染症対策本部事務局 山口望美氏（健康福祉課長）です。下記に新宮町地域包括支援センターにて取り組んだ、独り暮らしのお年寄りへの支援活動内容と5ページにインタビュー内容を掲載。

特集
コロナに
負けるな
新宮町！
— 町の取り組み編 —

孤立しがちな独り暮らしのお年寄りに電話をしています

新宮町地域包括支援センター職員が、定期的に電話をしています。これまでの事例です。

- ・皆さん最初はおかかってきた電話の相手が本当に役場からなのかと不安そうでしたが、会話していくうちに、生活の様子を教えてください、「わざわざありがとうございます」と言って頂くことが多くなりました。
- ・「町長が心配している」と伝えると声が明るくなり会話が進みました。
- ・「孫の世話を頼まれ、孫との交流の機会が増えました」とおっしゃる人もいました。
- ・「子が心配して電話をくれたり、食材を持って来てくれる」等、家族との関わりが増えた印象もあります。病院の受診も自粛されている人もいました。



もしもし、私は新宮町地域包括支援センターの職員です。お元気ですか？

人と
会っていないし話もしていない 久しぶりに会話しました ありがとうございます



※この電話でお金のことや家族のことを聞いたりしませんので、詐欺電話に注意して下さい。

新宮町プレミアム付商品券発行

町内の皆さんや事業者のかたを応援するため、例年新宮町商工会が発行している『新宮町プレミアム付商品券』の還元率を10%から30%に引き上げ、消費拡大を目的に発行します。

【発行時期】8月中旬以降予定

【問合せ先】役場産業振興課

☎962-0238(直通)

たべりい新宮 テイクアウトとデリバリーで飲食店応援



町内のテイクアウトやデリバリーにより、商品を提供して頂ける店舗情報を集約し、『たべりい新宮』として周知し多くの人に利用して頂くことで応援していきます。

詳しくはホームページをご参照。

【HP】<http://shingu-navi.jp/gourmet/8682>

【問合せ先】役場産業振興課

☎962-0238(直通)

新宮町新型コロナウイルス感染症

「30年以上役場に勤務
していて、ここまでの対
応を迫られたのは初めて
です」と山口課長（健康
福祉課）は話されました。

「新宮町の福祉政策もソー
シャルディスタンスの関
係で、今までと違った形
でどう人と繋がっていく
のか、これから町民の皆
さんの声を聴かせて頂き
ながら考えていきたいで
す」とのこと。

編集部より質問させて
頂きました。

「町として住民の皆さん
に一番伝えたいことは何
ですか？」

「お願いしたいことは、
コロナ禍の中、感染して
しまった人や場所をつき
あげるといふか、責める
風潮が世の中にはありま
す。他市町村では、コロ
ナが発生したお店の壁に
落書きするなど攻撃をし
ている人がいます」



『疫病退散竹灯籠』立花オールパワーズ制作

コロナに感染してし

まったことを、悪のよ
うに見るのではなく、
もしかしたら自分も症
状がないだけで感染し
ているかもしれない
もし自分が感染したら
どうだろうと想像し思
いやりの気持ちをもっ
て接して頂きたいので
す

お互い様の精神です
幸い新宮町では新型コ
ロナウイルス感染症で
お亡くなりになった人
もなく、クラスターも

発生していません

（令和2年6月19日
現在）

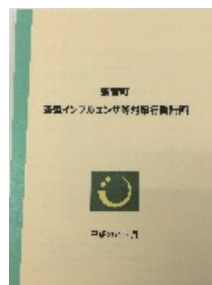
正しい知識を持って
適切な感染予防対策を
お願いします」とのお
話でした。

しんぐうライフ編集
部一同、対策本部に敬
意を表します。

ところで、この感染
症の問題は、疫学的な
問題だけでなく、人々
の繋がりを分断したこ
とです。生活や事業の
困窮、教育機会の縮小

対策本部の紹介

本部長：町長
副本部長：副町長
本部員：各課の課長
粕屋北部消防本部より1名
以上、事務局員を含め
総勢、24名のチームです。



実は、この対策本部は平成26年6月より準備されていました。
『新宮町新型コロナウイルス等対策行動計画』は52ページにもおよぶ
しっかりとした計画書です。今回、役場の対応が迅速であった根拠
だと推測されます。

等が大きな問題なのは言
うまでもなく、シニア層
や障がいのある人に対す
る支援やコミュニケーション
も難しくなりました。
今回の特集では、そん
な中でもがんばる人々を
取材させて頂きました。
コロナに負けるな新宮町
町民一丸となりこの危機
を乗り越えましょう。

新型コロナウイルス退散祈願、

疫神社に行きました

三密を避けながら、近場で自然を満喫でき、疫病退散の祈願もできる神社を見つめました。お隣古賀市青柳にある五所八幡宮です。

ここは、ムーミンの木で有名な樹齢千年の木々に囲まれた静寂な神社です。本殿の周りに、小さな祠があり今宮神社・疫神社と印されています。

京都府北区にある今宮神社には平安建都以前より、疫病を鎮めるため、疫神を祀っている疫社があります。そこから御霊を分けて頂いているのでご利益あります。



今宮神社 疫神社

さて珍樹の森も探索です。倒れそうな木をもう一本の木が支えている『助け合いの木』境内奥の『ゆずりあいの木』など樹齢千年以上の、人間でいうと大老たちが私たちにボランティア精神を教えてくれています。未来に残したい森ですね。

五所八幡宮
古賀市青柳1687
Tel 092-942-2344



ムーミンの木



珍樹の森マップ

コロナに負けるな新宮町！ — 番外編 —



アマビエアロマストーン 部屋に好きな香りをたどよわせる道具をアマビエシルエットのデザインにしました。好みの天然植物精油を染み込ませ、空気清浄、リフレッシュ・リラックス効果を発揮し、免疫力を高めます。（感覚の個人差有）



アマビエ木版画（弘化3年4月中旬）
京都大学付属図書館蔵 Wikipediaより

番外編では編集部女史たちで集めた疫病退散のシンボル『アマビエ』の写真紹介です。全て実物を写してきました。楽しかったです。アマビエとは、日本に伝わる妖怪です。発祥は熊本県だと言われています。「海中から光を輝かせるなどの現象を起こし、豊作・

疫病などに関する予言をしたとされる「ウキペディア」その姿は、首から下は鱗で覆われ三本足。尖った嘴と長い髪？耳は鰓？が特徴です怖可愛いですね（笑）町内に限定してアマビエ商品を探してみました。酒のNAGASAKIさんでは純米吟醸酒があり、島と実サロンではアロマストーン（芳香石）くら寿司さんでは和菓子が回転レーンで回っていました。他のアマビエ商品情報も求めます。



アマビエ日本酒



アマビエ和菓子

的野の畑で高校生が竹チップ作り！

2月20日、的野の熊野神社前の畑（笠井与志則さんが貸してくれた畑）で立花高等学校の生徒による竹チップ作りが行われました。

新宮町在住で不登校支援をしている上村ゆみ子さんが、的野在住の三上加代さんに相談したのがきっかけです。三上さんの声かけにより、笠井さんをはじめとする的野の方々、社会福祉法人レーヴ福岡のスタッフの協力が集まり、この畑体験活動の実現につながりました。

上村さんは「子どもたちが環境を自分で作れる場所、失敗しても大丈夫と体感できる場所を作りたい」と話されます。



山から竹を運ぶ
立花高校生徒さん

竹チップマシン準備OK

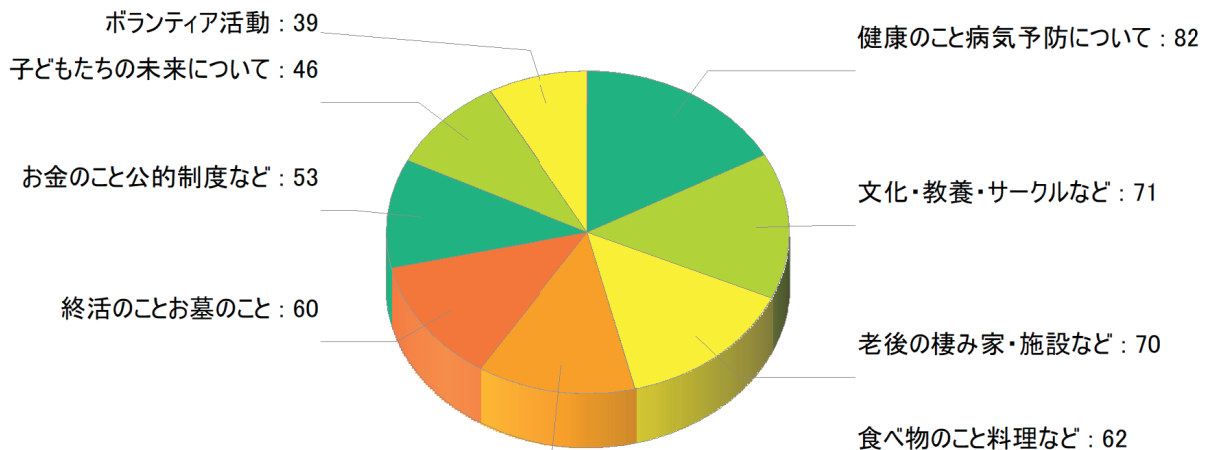


※現在は、コロナ禍により
活動を停止しています。

この活動に賛同されている立花高等学校の齋藤眞人校長は、当日、生徒と共に汗を流されました。「うちの生徒たちは不登校の過去をもっているの、それが活きる取り組みをしたい過去を清算するのではなく、生徒たちの過去が社会に役立つのであれば痛快です」とのことです。

参加した立花高校の生徒たちからは、「楽しかったまた来ます」「収穫して食べたい」など明るい声が聴けました。

読者アンケート 175人にお答え頂き、複数回答可にて、掲載して欲しい内容にチェックして頂きました！



しんぐら ライフ白書

アンケート『情報誌に掲載して欲しい内容』

1番は、「健康のこと病気予防について掲載して欲しい」でした。2番目は「文化・教養・サークル」についてです。今後の記事に反映していきます。以下は項目以外で自由にご記入いただきました内容です。

「病気と食事・高血圧に良い食べ物、悪い食べ物、注意すること。高齢者と運動の目的」
「川柳がおもしろかった」「新宮町に住んで40年以上。知らないことがいっぱいです。『歴史ロマン』を興味深く読みました。」皆様 ありがとうございます。今後ご発言お待ちしております。



写真 『岸边のヤマフジ』 撮影 真鍋和久 場所 山の口貯水池(的野)

特選山柳

元々さ 妻と俺とは ソーシャルディスタンス

テレビや情報誌では、こぞってソーシャルディスタンス(社会的距離)をとれというが、うちは元々・庵原伸一作

編集後記

第2号はコロナを特集しました。まだ「のぞみ」は暗いですが、「ひかり」はあります。あしたを漢字で書くと明るい日『明日』コロナ禍の一日も早い収束を願っています。 【緑ヶ浜・庵原】

貴重な経験をさせて頂いています。月日が経つのが早いです。 【夜白一区・堀田】

運動不足対策で町中を散策しました。お陰で興味ある題材等を見つけました。 【桜山手・近藤】

撮影に行くたびに新しい発見があります。大満足しています。 【緑ヶ浜・真鍋】

コロナ禍で身も心も委縮するが、それでも前に歩まなければなるまい。 【新宮区・河野】

令和2年7月豪雨、コロナ感染危機の中、支えあい、新生活スタイルを忘れず、命を守り続ける日々を送っています。 【湊坂・藤本】

楽しく参加してます。皆様におんぶにだっこです。 【的野・三上】
知ることのできず、考える事もありますが、楽しいです。 【桜山手・庵】

表紙のデザインとロゴを少し改定しました。 【夜白一区・中嶋】
緊急事態宣言解除後、編集部皆さんと活動でき、元氣になりました。やはり人と会うことは大切ですね。 【原上・藤岡】

この情報誌は、赤い羽根共同募金の配分金の一部で作成されています。

2020年 夏～秋 第2号 発行＝しんぐうライフ編集部

福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4-3-1 社会福祉協議会内 ☎092-963-0921(代表)

